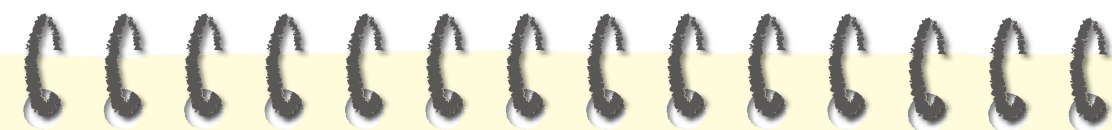
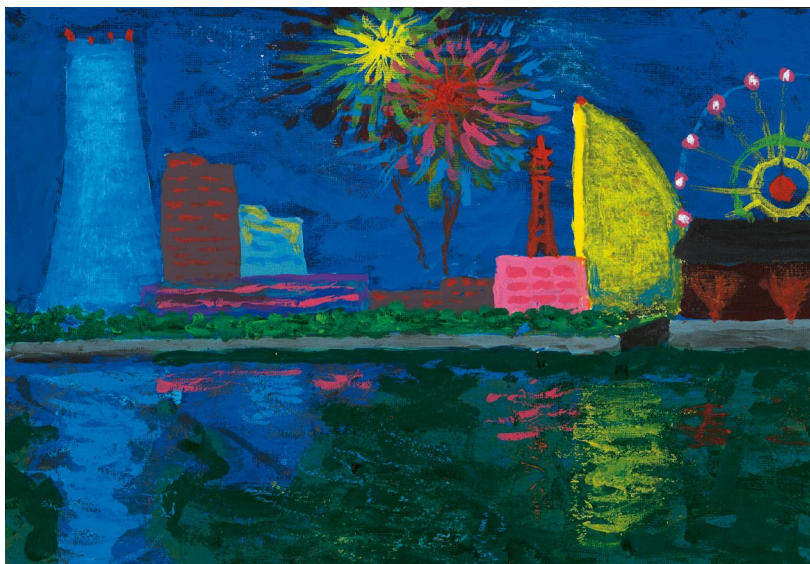




夏の夜空を震わせながら咲く花火の美しさと、風に乗って流れてくる硝煙と硫黄の匂いは、いつまでも色褪せることのない夏の思い出として、私の脳みそに刻みこまれています。

特に街の喧騒から離れた水辺から眺める花火は、美しい色彩が空を彩るだけでなく、水面を揺らすように映り、とても幻想的な光景だったことを記憶しています。

残念ながら受傷以来なかなか花火を見に行くことは難しくなりましたが、今回そんな懐かしい花火の光景を少しでも表現できればと思い、描いてみました。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



田中七奈「水族館」

製作が大好きです。選ばれて嬉しかったです。(田中七奈)

アーノルド・キアリ奇形の方で、限られた上肢機能の中で絵を描いたり、貼ったりと製作を楽しんでいます。人にプレゼントしたり作品を見もらうことが、入所生活において楽しみになっていて、今回の応募にも意欲的でした。今回の魚やタコ等描いたものを吊るすというのも本人の案です。掲載されることを嬉しそうに面会に来た家族や病棟職員に話していました。(担当 OT：倉重智恵美)